

## ベトナム国 もみ殻の再生利用で環境改善

### 秋田県の企業が開発した、もみ殻を活用した建築資材の普及を目指す

国際協力機構（JICA）は11月14日、「中小企業連携促進基礎調査」において株式会社能代資源（代表取締役 佐藤肇治）が提案する「粃殻ボード普及による粃殻再利用促進に向けた事業可能性調査（中小企業連携促進）」（ベトナム国）を採択しました。

ベトナム国メコンデルタ地区ではベトナムの米生産の半分が生産されています。ロンアン省の米の生産量は年間215万t、もみ殻は年間40万tが発生しますが、多くは燃料として利用され、再利用率は約50%に留まっています。未利用のものは、放置または河川への不法投棄がされているケースも多く河川汚染の一因となっています。



(株)能代資源の技術で開発。内装材や掲示板としても利用可能です。

「MP エコボード」  
特許第 5396567 号

上記のような課題に対し株式会社能代資源は、独自に開発したもみ殻の成型技術にて建築資材となるもみ殻を原料としたボードを製品化することで、新たなもみ殻の活用を提案し、不法投棄による河川汚染の改善を図ります。本調査では、ベトナムでの製品製造や販売の可能性の調査及び ODA 案件との連携について情報収集を行います。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業連携促進基礎調査」として実施されます。本スキームは、優れた製品や技術力を有する中小企業が途上国に進出することによる開発課題解決の可能性及び ODA 事業との連携可能性を検討するためのもので、検討に必要な基礎情報の収集と海外展開事業計画の策定を目的としています。2014 年度は本年 7 月に公示を行い、61 件の応募のうち 10 件が採択されました。今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。